



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	6. 学生ボランティア活動相談室との連携：「ボランティア養成講座」の開催にあたって
Author(s)	満保, 裕太
Relation	北海道大学ピアサポート活動報告書（平成28年度版）p. 48-50
Issue Date	2017-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65094
Type	report
File Information	06HokudaiPeerSupport_H28.pdf



6. 学生ボランティア活動相談室との連携

—「ボランティア養成講座」の開催にあたって—

満保裕太¹

1. はじめに

「学生ボランティア活動相談室」(以下、「ボランティア相談室」)は、北海道大学の学生支援機関の1つである。業務としては、ボランティア情報の収集・整理・提供を実施している。またボランティア相談室では、年に1度大学内外から講師を招いての講話やボランティア経験者の体験談発表会等を「ボランティア養成講座」として毎年実施している。しかし、本企画への参加者を増やすことには難儀していたようである。ボランティア相談室は高等教育推進機構1階N109に位置しており、人通りが多い場所とはいえない。前年度では、案内ビラを構内配布・掲示し、ボランティア相談室を普段利用しない学生へ呼びかけを行ったが、あまり効果が見られなかった。そのため、前年度の反省会において、知人等を介して自然発生的に企画の周知や参加意欲の増進を図る、いわゆる「口コミ戦略」が改善点の1つとして挙げられていた。今年度ピアサポート室では「連携チーム」を新たに創設するなど他機関との連携強化を1つの目標にしていた。そこで、ピアサポーターとボランティア相談室学生補助員を兼任する筆者が「ボランティア養成講座」の実施場所として、ピアサポート室の利用を提案し、本企画が開催されることとなった。

2. 企画内容

2.1. 日時場所

2016年11月21日(月)16:30~20:45 ピアサポート室にて実施した。

2.2. 企画趣旨

ボランティア経験者と未経験者の双方に、様々な分野のボランティア体験談を伝えることで、経験者には活動範囲を広げていく場を、未経験者にはボランティア活動を始めるきっかけ作りの場を提供する。

2.3. タイムスケジュール

16:30~18:15(105)	ボラカフェ + アイマスク・車いす体験会
18:15~18:30(15)	受付
18:30~18:35(5)	開会・企画趣旨説明
18:35~18:45(10)	アイスブレイキング
18:45~19:05(20)	災害ボランティア体験談

¹ 北海道大学教育学部3年

19:05～19:25(20)	環境ボランティア体験談
19:25～19:45(20)	教育ボランティア体験談
19:45～20:05(20)	海外ボランティア体験談員
20:05～20:10(5)	休憩
20:10～20:40(30)	グループディスカッション
20:40～20:45(5)	全体のまとめ

3. 当日の様子

平常通りピアサポート室は 12:00～16:30 まで開室していた。シフト担当のピアサポーターは利用者に対して、ピアサポート室の通常業務終了後に「ボランティア養成講座」があることを伝え、企画への参加を呼び掛けた。16:00 頃から企画の準備を開始し、16:30 からは第 1 部プログラムである、ボラカフェとアイマスク・車いす体験会を実施した。ボラカフェは、参加者に菓子や飲み物を提供しながら、ボランティア相談室の専門相談員(ボランティアコーディネーター)や学生補助員とボランティアについて気軽に会話するもので、参加者は時折笑みをこぼしながらも真剣な表情で話を聴き入っていた。また、ピアサポート室とボランティア相談室をつなげることを意識して、車いす体験会では専門相談員ならびに補助員の誘導のもと、参加者には両室を往復してもらった。18:30 からは第 2 部プログラムである、体験談発表会とグループディスカッションを実施した。体験談では、災害、環境、教育、海外²の 4 分野について、各担当の学生がパワーポイントを使用して、ボランティアの内容を筆頭に、はじめた動機、苦労話、どこに喜びを感じるか、などを発表した。その後のグループディスカッションでは、参加者だけではなく、ボランティア相談室専門相談員・学生補助員、体験談発表者を含め、10 人程のグループを 2 つ作り、先ほどの体験談の感想や各自身のボランティア体験について語り合った。

4. 本企画の反省

本企画は、ピアサポート室とボランティア相談室の初の連携企画という点に意義を見出すことができる。今年度は、ピア室側による場所の提供こそあったが、企画段階ではピアサポーターの関与はほぼなく、当日でも 5 名のピアサポーターが参加者として関わっただけであった。しかし、本企画はピアサポート室の年間予定に当初から組まれていたわけではなかった。そのため、他の業務に支障をきたす可能性があったことを考慮すると、ピアサポート室の関わりが控えめであったことはやむを得なかったといえる。また、今年度の養成講座の参加者は例年と比べてさほど大きく変わらなかったが、養成講座の後日に、ピアサポート

² 各分野の内容は以下の通り。

災害：南富良野町での台風被害復興

環境：植林ボランティア

教育：学校ボランティアサークル「ルピナス」の活動と運営

海外：カンボジアでのスタディツアー

室利用者からボランティア相談室の場所を尋ねる相談があった。従って、今年度は来年度に向けての布石を打ったものと捉え、養成講座に参加したピアサポーターを中心として、来年度のピアサポート室とボランティア相談室の連携を考えていく方が建設的である。